

第31回 リスキリング

日本総合研究所 創発戦略センター
スペシャリスト 小島 明子

現在、日本の大学数は約800です。少子高齢化により、大学生の数は減少傾向にあります。40～60歳代の学び直し世代は増加しています。文部科学省のポータルサイト「マナパス」には多くのカリキュラムが掲載されています。通学ではなくWeb通信形式が増えてきており、自分の興味のある分野を勉強できる仕組みも整っています。仕事終わりや休日を活用し、学習するとすると労力もかかりますが、自己投資をした分は、将来の自分に必ず返ってくるはず。 (編集部・20歳代男性)

1. はじめに

第30回では、「シニアの再就職」について取り上げました。少子高齢化が進む日本においては、定年を迎えた後のシニアの活躍が期待されています。働くシニアの数が増えるという量の問題も重要ですが、世の中から求められるスキルを持ったシニアが増えれば、シニアおよび企業双方にとってもメリットがあるといえます。そこで、第31回では「リスキリング」について取り上げます。

2. リスキリングを取り巻く動向

リスキリングという言葉が注目された背景としては、2020年のダボス会議で、リスキリング革命 (Reskilling Revolution) が発表されたことが挙げられます。この中では、2030年までの10年間に「10億人がよりよい教育やスキルを習得する機会を得る」という目標が掲げられましたⁱ。日本においては、IT・データを中心とし

た将来の成長が強く見込まれ、雇用創出に貢献する分野において、社会人が高度な専門性を身に付けてキャリアアップを図ることができるよう、経済産業省が「第四次産業革命スキル習得講座認定制度」を設けました。厚生労働省が定める一定の要件を満たせば、その費用の一部が「専門実践教育訓練給付金」として支給される仕組みも用意されていますⁱⁱ。

政府は、個人のリスキリングに対する公的支援について、人への投資策を5年間で1兆円の施策パッケージとして拡充することを打ち出していますⁱⁱⁱ。具体的には、現在3年間で4000億円規模で実施している人への投資強化策について、施策パッケージを5年間で1兆円へと抜本強化すること、現在100万人のデジタル人材育成を強化し、2026年度までに330万人に拡大すること、企業によるスキル向上のためのサバティカル休暇の導入を促進することなどが挙げられています。最近、このような動きに先行して、全従業員をDX人材にしようとする企業も始まっています。今後も、リスキリングを望む人たちが、リスキリングしやすい環境作りは進むことが予想されます。

i <https://initiatives.weforum.org/reskilling-revolution/home>

ii <https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/reskillprograms/index.html>

iii 内閣官房「新しい資本主義実現会議 (第10回)」資料「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」の実施についての総合経済対策の重点事項 (案)
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/kaigi/dai10/gijisidai.html

3. リスキリングに対する関心

エン・ジャパン株式会社がリスキリングについて行った調査^{iv}によれば、興味がある（「大いにある」、「ある」）と回答した人は、8割を超えています。さらに、年代別にみると、30歳代、40歳代で「大いにある」と回答した人は約4割を超えており、他の世代に比べて関心が高いことが分かります〔図表1〕。

また、「リスキリングに興味がある」と回答した人に、身に付けたいスキルを尋ねた結果では、動画編集（36.0%）が最も多く、「語学」（35.0%）、「プログラミング」（34.0%）と続いています。一方、「AI・機械学習」（11.0%）、「情報セキュリティ」（13.0%）は、約1割程度にとどまっています。年代別にみても、20歳代以下では、「動画編集」（48.0%）、30歳代では、「WEB制作」（42.0%）が、40歳代および50歳代以上は「語学」（40歳代：39.0%、50歳代：31.0%）が最も多くなっています〔図表2〕。

これらのことから、リスキリングに対する関心について年代別に差はないものの、リスキリングによって習得したい技術は、年代によって差があることが分かります。特に20歳代および30歳代といった若い世代では、パソコンを利用した技術の習得への関心が高く、40歳代以上と

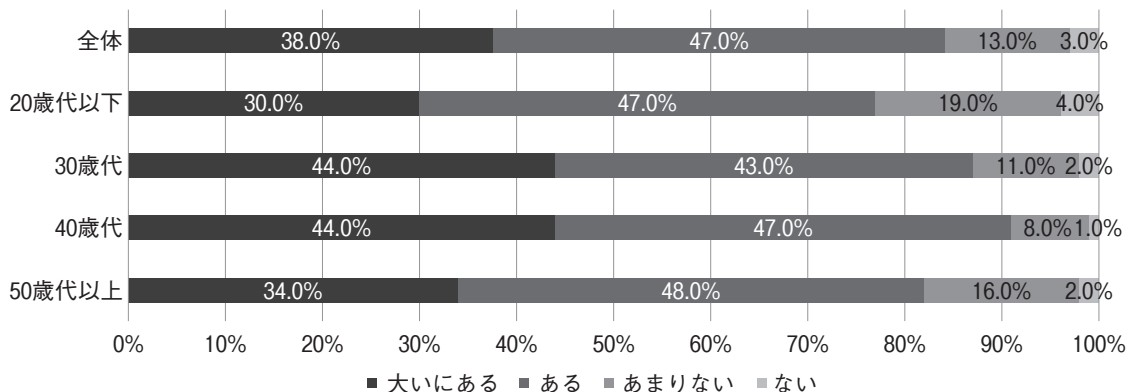
なると、そのような技術への関心は低くなり、語学学習に関心があることが読み取れます。

国内では、生産性の向上が働き方の課題の一つとなっており、それを克服するために求められるのがデジタル技術の向上です。そのためには、年代問わず、デジタル人材が増えることが求められています。特に、裁量や権限を持っている管理職層をはじめとした中高年層のデジタルへの知識を高めることは、企業経営においても重要なことだと考えます。

4. リスキリングを行う上で重要なこと

経済産業省の「未来人材ビジョン（2022年5月）」によれば、2015年と2050年で必要とされる能力が大きく変わることが示されています。2015年時点では、「注意深さ・ミスがないこと」「責任感・まじめさ」「信頼感・誠実さ」が上位3位までを占めています。2015年時点までは、与えられた仕事をまじめにコツコツと正確にこなす人材が求められていた状況がうかがえます。一方、2050年時点では、「問題発見力」「的確な予測」「革新性」が上位3位までを占めています。今後は、社会の課題や、社会の変化をとらえ、イノベーションを創出していく人材が求められるのだと考えます。社会から必要とされ続ける

〔図表1〕 リスキリングに興味はありますか？

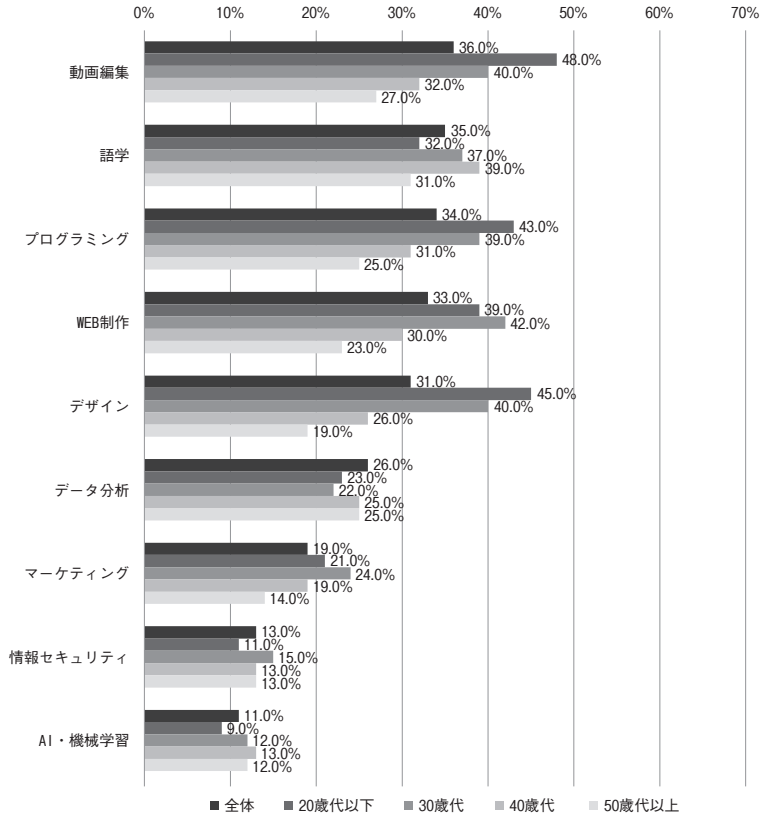


出所：2800人に聞く「リスキリング」調査 - 『エン派遣』ユーザーアンケートを基に筆者作成

（注）小数点以下を四捨五入しているため、必ずしも合計が100にならない

iv <https://corp.en-japan.com/newsrelease/2022/30556.html>

【図表2】身に付けたいスキル（年代別）



出所：2800人に聞く「リスキリング」調査 - 『エン派遣』ユーザーアンケートを基に筆者作成

人材になるためには、一人一人が向上させたい能力に資する、技術等を戦略的に学ぶという視点が大切だといえます。

5. 最後に

人への投資が話題になっている日本社会において、リスキリングへの関心は高まっています。強い個性を作っていく上では、個人が高いスキルを身に付け続けることは大切なことだと感じます。一方で、個人のパフォーマンスを上げる

ために重要なのは、時間をかけてスキルを学ぶことだけではなく、その学び、あるいは、その学びを通じてできる仕事を楽しみかどうかという視点です。林学者であった本田静六氏は、著書の中で「人生の最大幸福は職業の道楽化にある」¹⁾と述べています。楽しい仕事であれば、そのための学びは政府や企業から求められなくても、自然とかつ自発的に行われるのではないのでしょうか。さまざまなスキルが求められる厳しい社会だからこそ、「職業の道楽化」が、生き抜く術になるのではないかと感じます。

v 本多静六「私の財産告白」（実業之日本社文庫）

こじま あきこ 株式会社日本総合研究所 創発戦略センター スペシャリスト。CFP®認定者、1級ファイナンシャル・プランニング技能士。金融機関を経て、株式会社日本総合研究所に入社。環境・社会・ガバナンス（ESG）の観点からの企業評価業務に従事。その一環として、女性を含む多様な人材の活躍推進に関する調査研究、企業向けに女性活躍や働き方改革推進状況の診断を行っている。主な著書に『女性発の働き方改革で男性も変わる、企業も変わる』（経営書院）、『「わたし」のための金融リテラシー』（共著・金融財政事情研究会）、『中高年男性の働き方の未来』（金融財政事情研究会）。